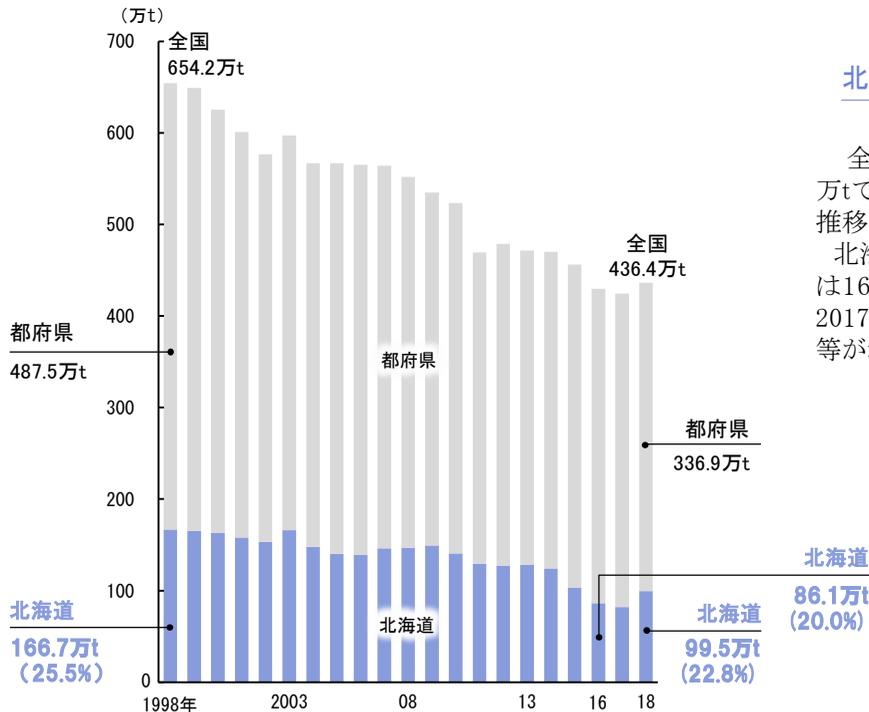


1 海面漁業・養殖業生産量と産出額

海面漁業・養殖業生産量の推移(北海道・都府県)



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

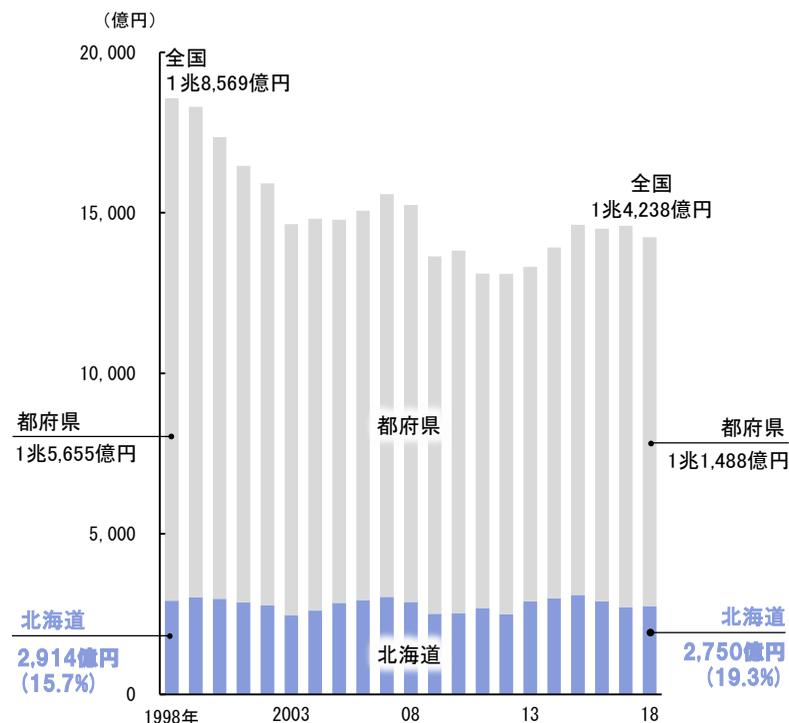
注：表記した各年次は過去の漁業センサス年（以下同じ）

北海道の生産量は近年100万トン前後で推移

全国の海面漁業・養殖業生産量は、1998年は654.2万tでしたが年々減少し、2011年以降は450万t前後で推移しています。

北海道における海面漁業・養殖業生産量は、1998年は166.7万tでしたが、2016年には100万tを下回り、2017年は82.1万tとなりましたが、2018年ははたてがいがい等が増え、6年ぶりに増加に転じました。

海面漁業・養殖業産出額の推移(北海道・都府県)



資料：農林水産省統計部「漁業産出額」

北海道の産出額は全国の2割を占める

全国の海面漁業・養殖業産出額は1998年は1兆8,569億円でしたが、2018年は1兆4,238億円となっています。2011年以降3年ほど低い時期がありましたが、近年は1兆4,000億円前後で推移しています。

北海道の海面漁業・養殖業産出額は1998年は2,914億円でしたが、2018年は2,750億円となっています。

2018年の全国の産出額に占める北海道の割合は19.3%で1998年の15.7%に比べ4ポイントほど高くなっています。

用語の解説

海面漁業…海面(浜名湖、中海、加茂湖、サロマ湖、風蓮湖及び厚岸湖を含む)において水産動植物を採捕する事業(くじら及びいるか以外の海獣を猟獲する事業を除く)

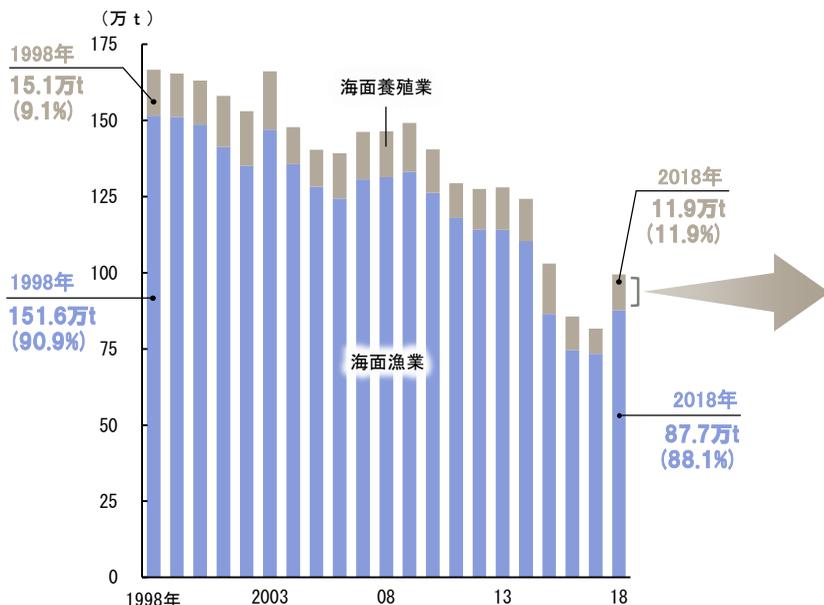
海面養殖業…海面又は陸上に設けられた施設において、海水を使用して水産動植物を集約的に育成し、収穫する事業

海面漁業・養殖業生産量…海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の合計

海面漁業・養殖業産出額…海面(浜名湖、中海、加茂湖、サロマ湖、風蓮湖及び厚岸湖を含む)における漁業生産活動によって生み出された最終生産物を金額で評価できるよう推計したものをいう。ここでいう漁業生産活動とは、「海面漁業」及び「海面養殖業」を対象とする。なお、便宜上、中間生産物である種苗の全量を自都道府県向けと見なし、収穫量に含まない。

海面漁業・養殖業別生産量の推移（北海道）

海面漁業・養殖業生産量

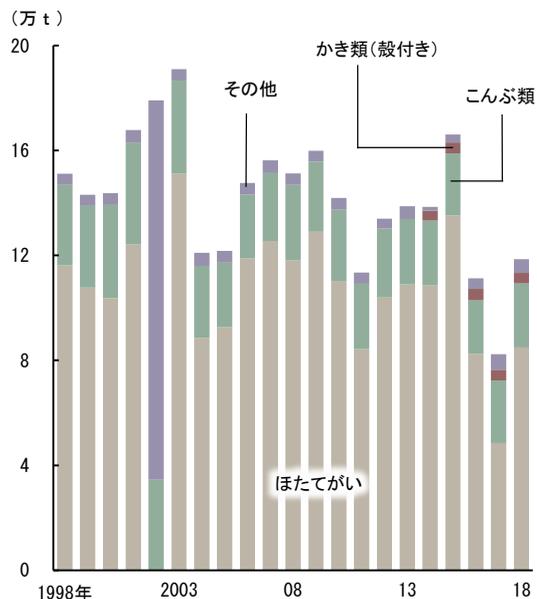


資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

海面養殖業収穫量は全体の約1割

海面漁業・養殖業生産量のうち海面養殖業の割合は約1割となっていて、その大部分はほたてがいが占めています。

生産量のうち海面養殖業収穫量

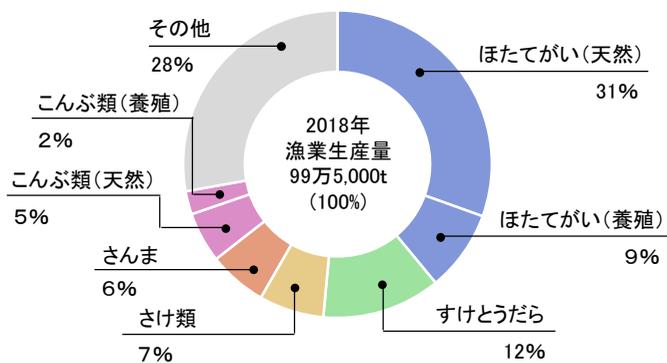


資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

注：2002年の海面養殖業のほたてがいが収穫量は秘匿措置が講じられていることから、当該収穫量は「その他」に含まれている。

海面漁業・養殖業生産量及び産出額の魚種別構成割合（北海道）

魚種別生産量



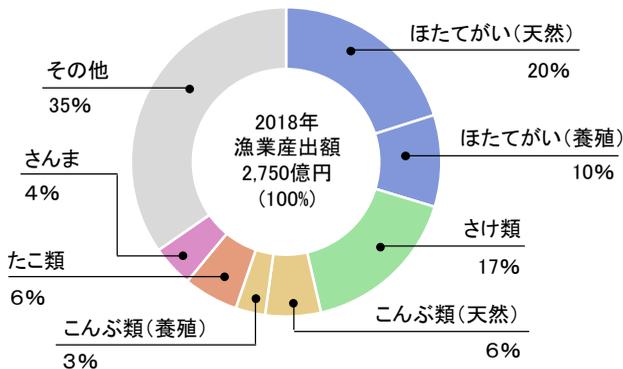
資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

「ほたてがいが」の生産量が4割

2018年の魚種別生産量割合は、ほたてがいが(天然)が31%で、ほたてがいが(養殖)と合わせると40%を占めています。

次いで、すけとうだら(12%)、さけ類(7%)で、この3魚種で約60%を占めています。

魚種別産出額



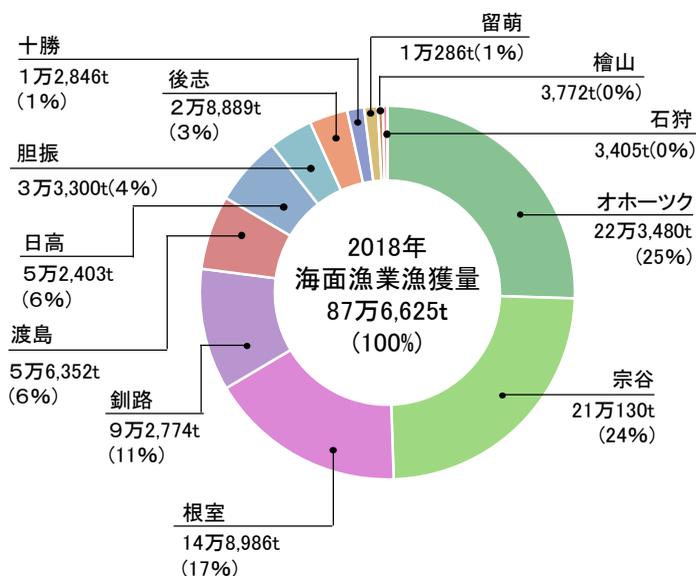
資料：農林水産省統計部「漁業産出額」

「ほたてがいが」の産出額が3割

2018年の魚種別産出額割合は、ほたてがいが天然と養殖を合わせて30%、さけ類が17%となっています。

次いで、こんぶ類(天然、養殖)(9%)、たこ類(6%)、さんま(4%)となっています。

海面漁業漁獲量の割合(地域別)

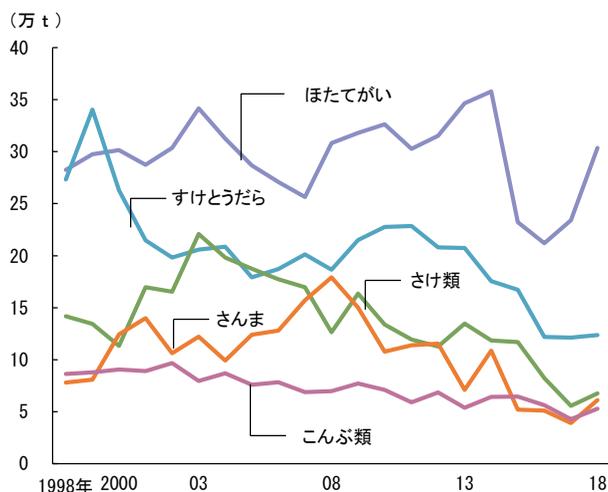


資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

オホーツクが最も多い

海面漁業漁獲量を地域別にみると、オホーツク地域が22万3,480t(25%)と最も多く、次いで宗谷地域が21万130t(24%)、根室地域が14万8,986t(17%)の順となっています。

主な海面漁業魚種別漁獲量の推移

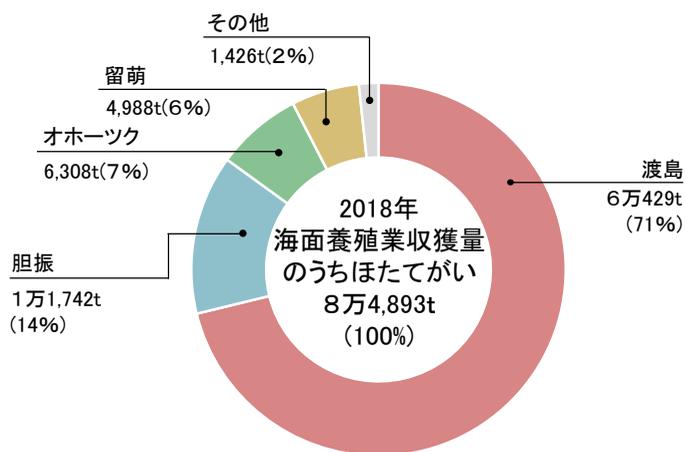


資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

ほたてがいが回復傾向

海面漁業漁獲量1位はほたてがいで、2016年に減少しましたが、その後回復傾向にあります。その他の主な魚種の漁獲量は減少傾向にあります。

海面養殖業収穫量のうちほたてがいの割合(地域別)

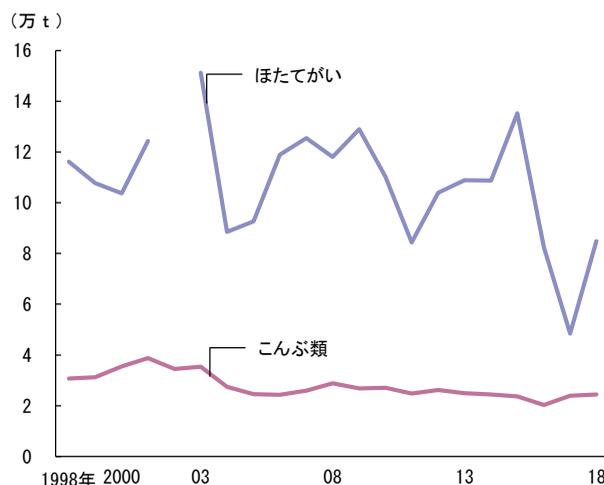


資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

渡島が最も多い

海面漁業養殖業のほたてがい収穫量を地域別にみると、渡島地域が6万429t(71%)と最も多く、次いで胆振地域が1万1,742t(14%)、オホーツク地域が6,308t(7%)の順となっています。

主な海面養殖業養殖種類別収穫量の推移



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

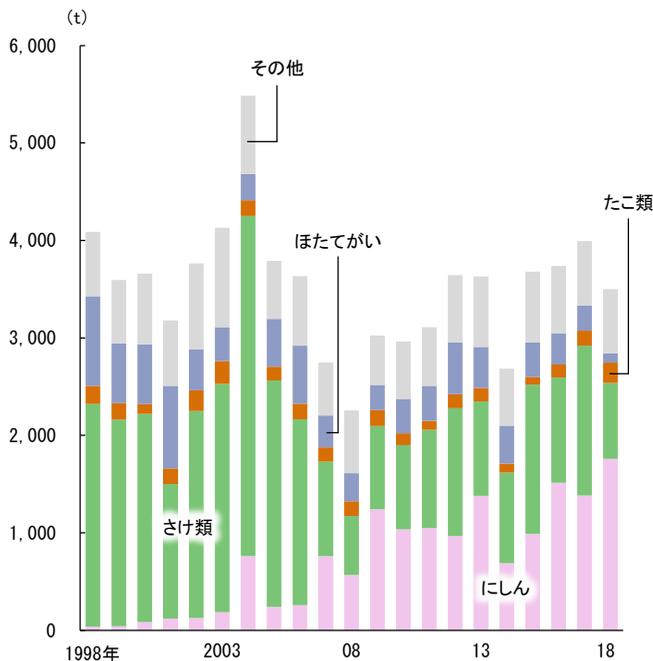
注：2002年の海面養殖業のほたてがい収穫量は秘匿措置が講じられていることから、グラフには表示していない。

ほたてがい、こんぶ類ともに回復傾向

海面養殖業収穫量の1位はほたてがいで、2017年に減少しましたが、2018年に増加に転じています。こんぶ類は2016年に減少しましたが、その後回復傾向にあります。

地域別主要魚種別の海面漁業・養殖業生産量の推移

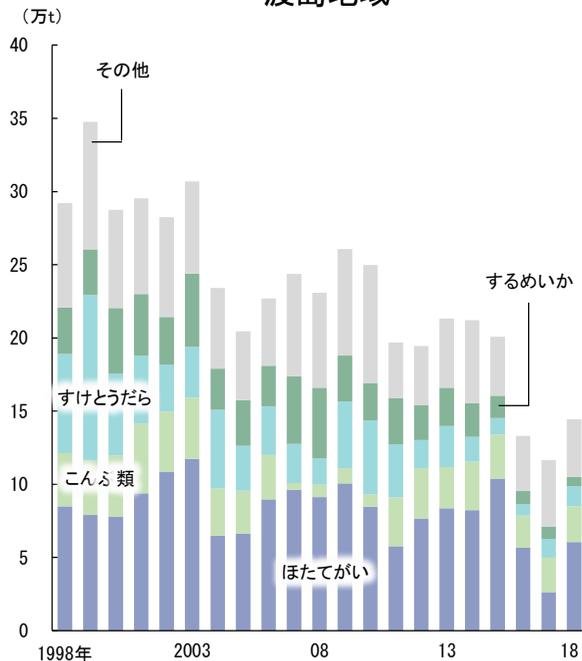
石狩地域



にしんが増加傾向

にしんの生産量が増加傾向にあり、2018年では最も割合が高くなっています。

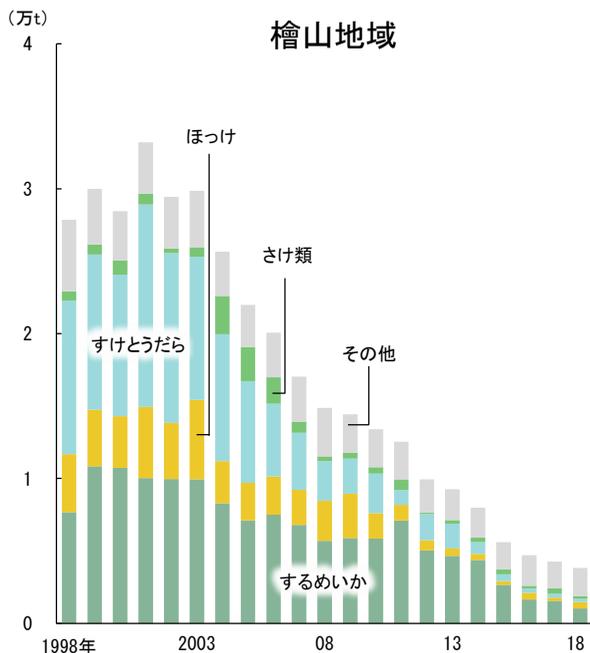
渡島地域



ほたてがいが増加に転じる

全体の生産量は減少傾向でしたが、2018年にはほたてがいの生産量が増加し、全体の生産量も増加しています。

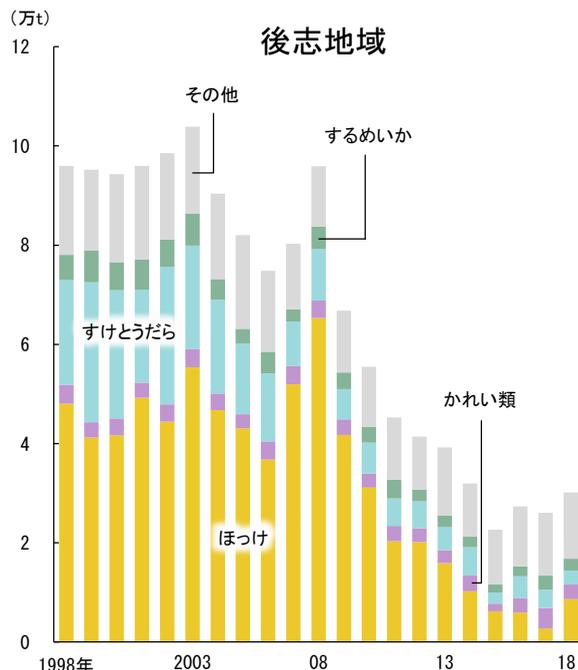
檜山地域



2003年以降は減少が続く

2003年まではするめいかやすけとうだらにより生産量は増加傾向でしたが、2003年以降は減少が続いています。

後志地域

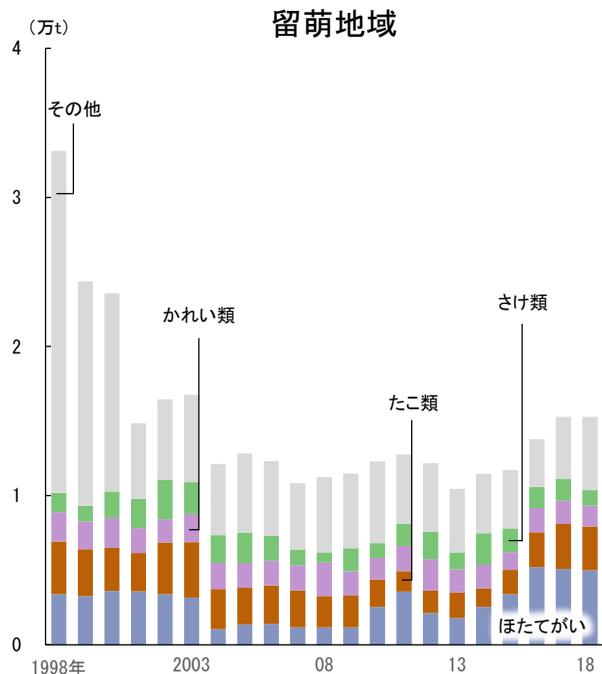


ほっけが増加に転じる

全体の生産量は減少傾向でしたが、2018年にはほっけの生産量が増加し、全体の生産量も増加しています。

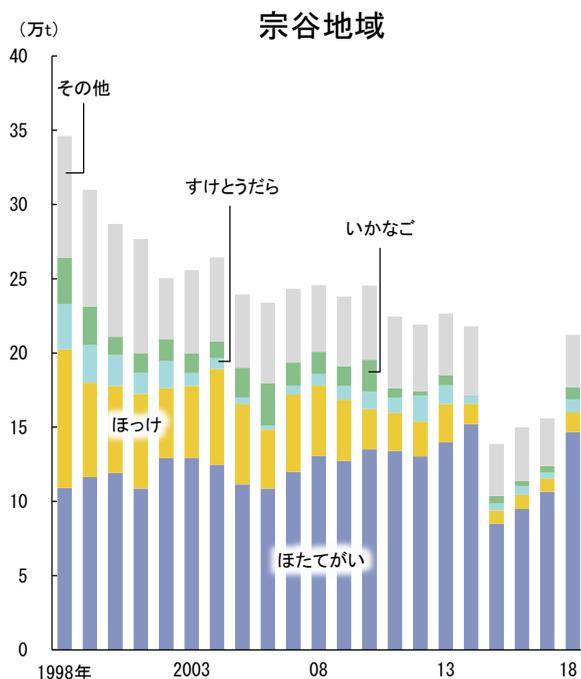
注：1 海面漁業・養殖業生産量は、海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の計である。
 2 海面養殖業地域別収穫量の計に秘匿措置が講じられている年次は、秘匿措置の講じられていない養殖種類の収穫量を合計した。
 3 海面養殖業において養殖種類別の収穫量に秘匿措置が講じられている場合は、その他に計上した。

地域別主要魚種別の海面漁業・養殖業生産量の推移(続き)



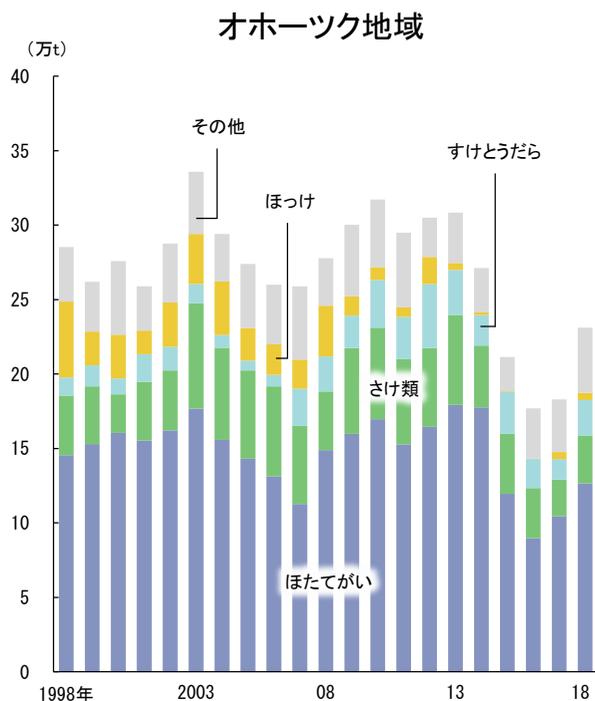
ほたてがい、たこ類が増加傾向

近年、ほたてがいとたこ類が増加傾向で、全体の生産量も増加傾向になっています。



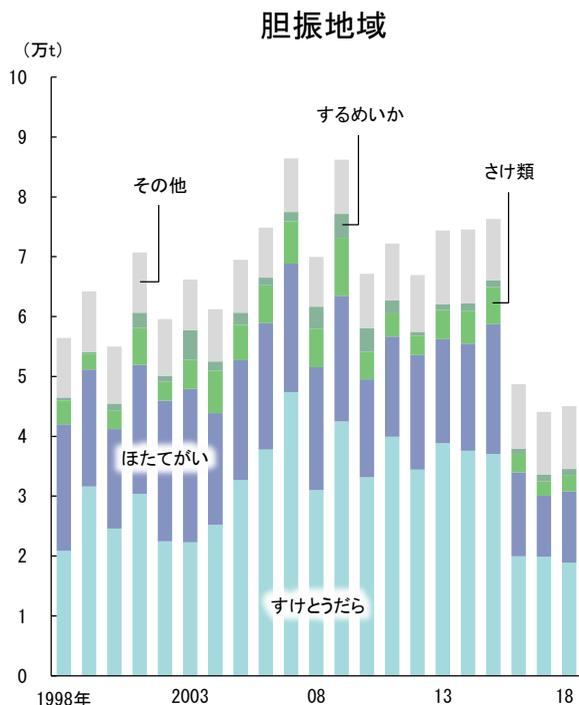
ほたてがいが回復

ほたてがいの生産量は2015年に大きく減少したものの、その後は増加しており、2018年は全体の生産量も大幅に増加しています。



ほたてがいが増加に転じる

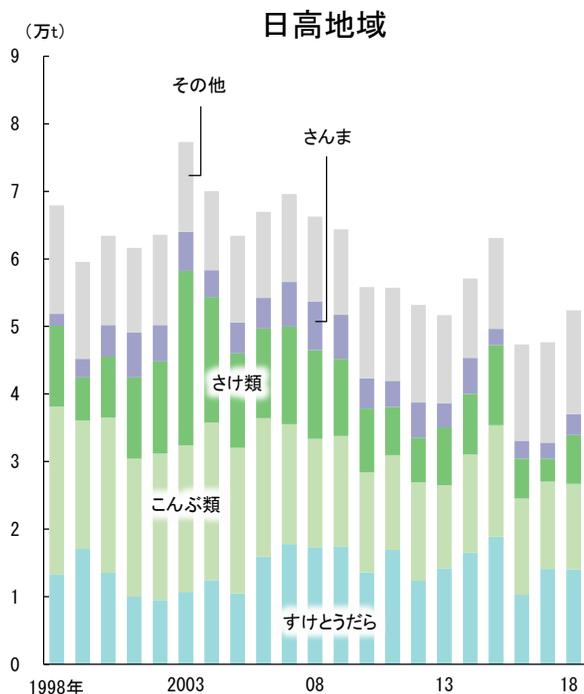
全体の生産量は2013年以降減少していましたが、2017年以降はほたてがいの生産量が増加し、全体の生産量も増加しています。



すけとうだらが減少

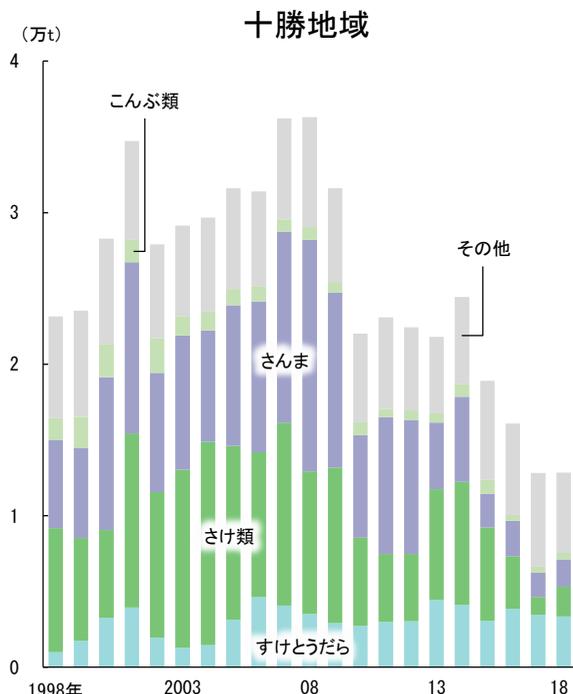
全体の生産量は2016年にすけとうだらが減少したことから大きく減少しています。

地域別主要魚種別の海面漁業・養殖業生産量の推移(続き)



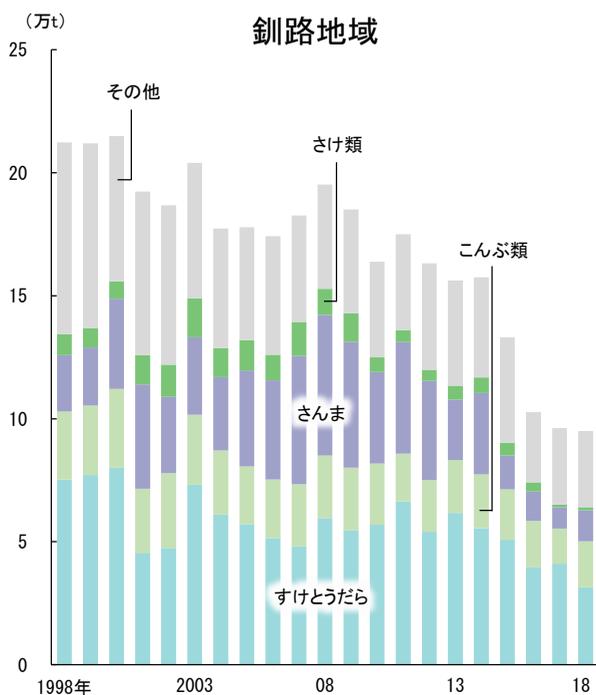
すけとうだらが回復傾向

2003年以降全体の生産量は減少傾向でしたが、2018年はさけ類が増加し、全体の生産量も増加しています。



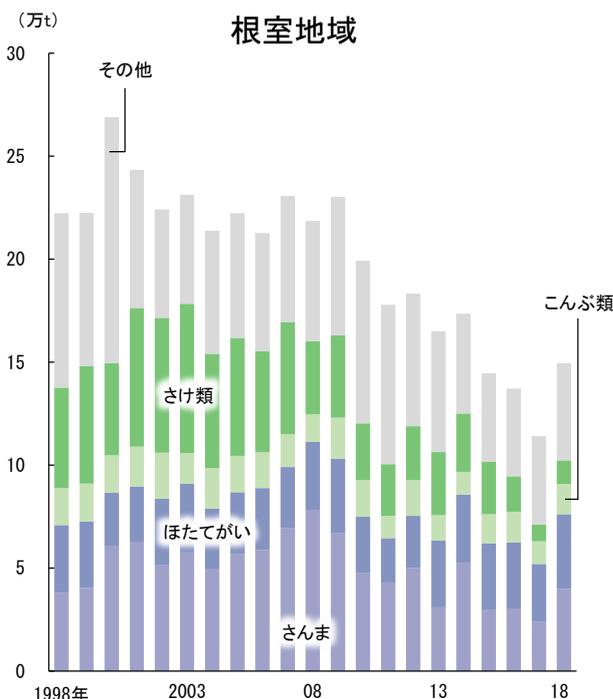
さんま、さけ類が減少傾向

2007年以降、さんまやさけ類が減少傾向となっており、全体の生産量も減少傾向となっています。



すけとうだら、さんまが減少

全体の生産量はすけとうだら、さんまが減少したことから減少傾向となっていますが、2018年のこんぶ類の生産量は増加しています。



ほたてがい、さんまが回復

全体の生産量は減少傾向となってきましたが、2018年はほたてがいやさんま等の生産量が増加し、全体の生産量も増加しています。